

一般社団法人全国専門学校情報教育協会(研修委員会)
令和5年度 研修ニーズアンケート
教員・職員

●調査時期
令和5年4月10日～令和5年4月26日

●発送数 68 件(校)

●回答数 44 件

●協力校数 20 校

●回答率 29.4 %

令和5年度 研修ニーズアンケート【教員・職員】

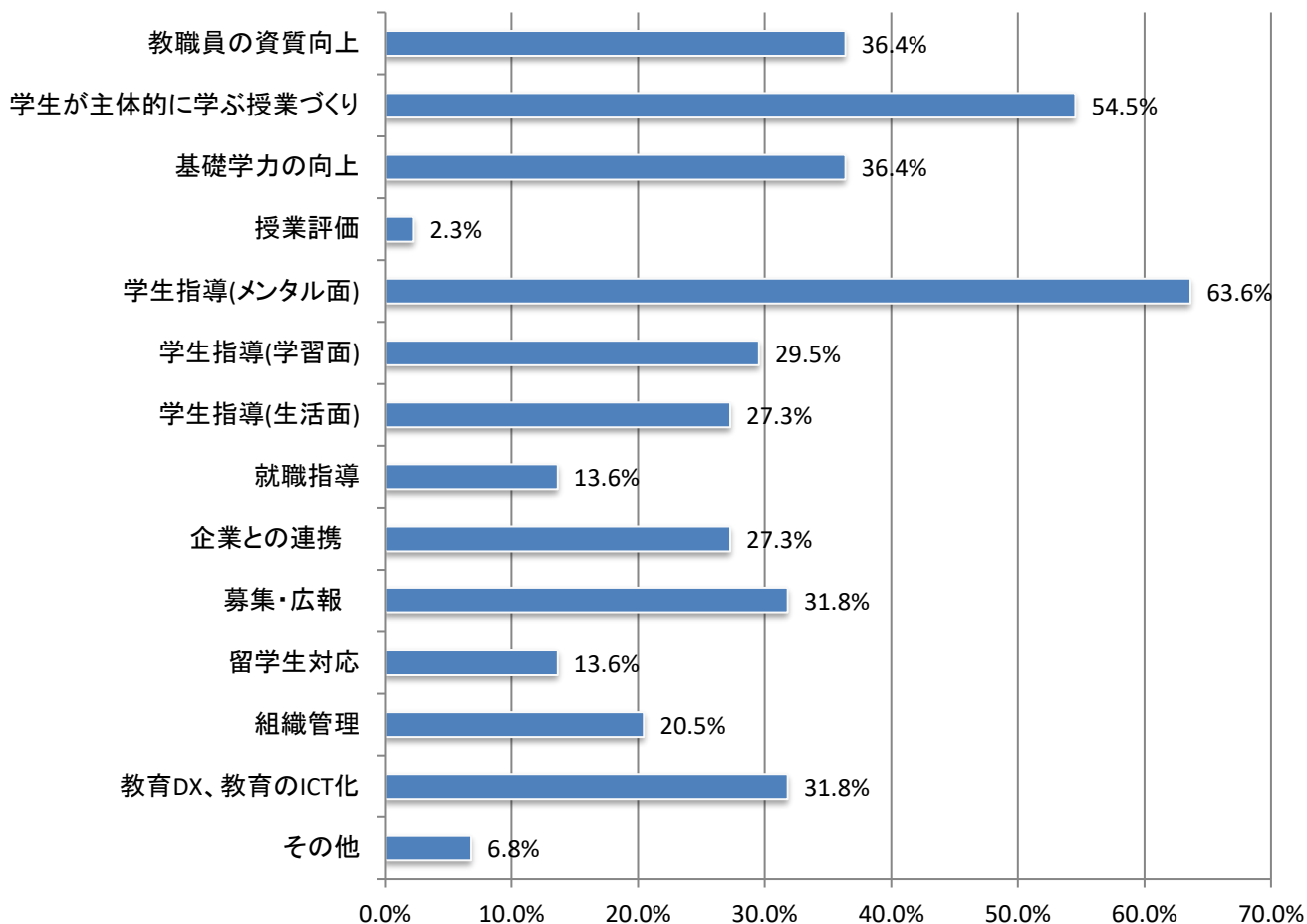
担当されている業務の課題として緊急性の高いと感じているものに○を付けてください。

no	項目	回答	%
1	教職員の資質向上	16	36.4%
2	学生が主体的に学ぶ授業づくり	24	54.5%
3	基礎学力の向上	16	36.4%
4	授業評価	1	2.3%
5	学生指導(メンタル面)	28	63.6%
6	学生指導(学習面)	13	29.5%
7	学生指導(生活面)	12	27.3%
8	就職指導	6	13.6%
9	企業との連携	12	27.3%
10	募集・広報	14	31.8%
11	留学生対応	6	13.6%
12	組織管理	9	20.5%
13	教育DX、教育のICT化	14	31.8%
14	その他	3	6.8%
	合計	174	-

※%の母数は回答者数(=44)、複数回答

【その他の回答】

- ・積極的に学生が授業参加できるようにしたい為、また、学生指導に力を入れていきたいと考えている為。
- ・特にアルゴリズムを苦手とする学生への授業指導など
- ・生成系AIに対するカリキュラムの対応



問題や課題を解決するために、どのような研修・セミナーがあったら良いと思いますか？

区分	研修テーマ	内容(概略で結構です)	形式	対象	日数	実施時期
教職員の 資質向上 学生指導 (学習面)	指導力向上	指示の出し方、学生のモチベーションを上げる方法	講義	教員	半日(1時間~4時間程度)	
教職員の 資質向上	専門学校を取り巻く環境について	18歳人口の減少、大学全入時代突入による学生募集環境は厳しくなる事が予想される中、教職員がその厳しさを共有し、今後の専門学校の在り方(教育と経営の両面)について考える。	セミナー	教員, 職員	半日(1時間~4時間程度)	
教職員の 資質向上	授業やカリキュラムに生成系AIをどう組み込むか	生成系AIを禁止するのではなく、扱い方や今後の活かし方についての研修	講義	教員, 職員, 管理職, 経営者	1日(5時間~8時間程度)	
教職員の 資質向上	Z世代との接し方	これから増えるZ世代の特徴、Z世代に対して、教職員としてどのように接していけばよいかなど。	講義	教員, 職員, 管理職	半日(1時間~4時間程度)	8~9月
教職員の 資質向上	教育技法	PBLの企画・準備・導入・評価に関するもの	実習	教員	2日間	6、8、9、2月
教職員の 資質向上	現在必要とされる授業法	AL、PBLや、ICTを使ったさまざまな授業法を学ぶ	セミナー	教員	半日(1時間~4時間程度)	長期休命中
教職員の 資質向上		講義づくりに必要となるティーチングスキルについて	講義	教員, 職員	半日(1時間~4時間程度)	
学生が主体的に学ぶ授業づくり	無気力、無目的の学生に対する意識向上		セミナー	教員	半日(1時間~4時間程度)	夏季休暇期間
学生が主体的に学ぶ授業づくり	自律的に学ぶチーム、クラスの育成	資格試験への取り組み、またはプログラミング等の技術習得において、学生の意欲を向上させる手法。またはチームを組んだ際に学生自身が協力し合い、意欲的に課題等を進める仕組みづくりなど。		教員	半日(1時間~4時間程度)	学生の長期休業期間中(盆、年末年始を除いた7月末~8月末、12月末~1月頭)
学生が主体的に学ぶ授業づくり	学生が主体的に学ぶ授業づくりについて	学生を主体的に学ばせるために、教員側でどのような仕組みを準備すればよいか	セミナー	教員	1日(5時間~8時間程度)	夏休みごろ
学生が主体的に学ぶ授業づくり	学生の自主性を高めるには	学生が課題・作品の作成に自ら取り組むような意思を持たせる。	セミナー	教員	半日(1時間~4時間程度)	3月下旬
基礎学力の向上	基礎学力の低下している学生に対して高度な知識の習得させる方法	四則演算ができない(小学校程度の学力がない)学生へどうすれば短期間(2年間)で応用情報技術者試験を合格させることができるか。	講義	教員, 職員, 管理職	半日(1時間~4時間程度)	お盆休み
基礎学力の向上	学力向上	基礎学力を向上させる具体的な取り組みについて	講義	教員, 職員	半日(1時間~4時間程度)	

区分	研修テーマ	内容(概略で結構です)	形式	対象	日数	実施時期
授業評価	授業評価をどう教務へ活かすか	授業評価を有効的に教務へ活かす方法・考え方、先進校の事例など	セミナー	教員, 管理職	半日(1時間~4時間程度)	夏休み中、春休み中など
学生指導(メンタル面)	発達障害と専門教育		セミナー	教員, 管理職	半日(1時間~4時間程度)	夏季
学生指導(メンタル面)	学生対応	適応障害、AHDなどの学生をどう指導すべきか。	セミナー	教員, 職員	半日(1時間~4時間程度)	
学生指導(メンタル面)	発達障害を持つ学生への対応方法		セミナー	教員, 職員, 管理職	半日(1時間~4時間程度)	
学生指導(メンタル面)	学生のメンタルヘルス	メンタルヘルスの知識内容を向上させるような講習	セミナー	教員, 職員, 管理職	1日(5時間~8時間程度)	授業がない時期
学生指導(メンタル面)	学生指導(メンタル面)	グレーゾーンの学生に対する対応について	実習	教員	半日(1時間~4時間程度)	8月
学生指導(メンタル面)	発達障害を持った学生の指導法	事例紹介, 専門家による指導法の紹介	講義	教員, 職員	半日(1時間~4時間程度)	夏季休暇中
学生指導(メンタル面)	メンタル面や障がい面で問題を抱えている学生への対応とクラス運営	メンタル面や障がい面で問題を抱えている学生が増えており、休学・退学につながる割合が高い状況です。そういった学生がいる一方、問題を抱えていない学生も同じクラスに属しております。担任としては両方に対応しつつ、実績(検定、コンテスト、就職などの)を求められます。どの様にして対応をしていけば良いのかを事例を踏まえながら学べる研修があったらいいなと思いました	実習	教員, 管理職	1日(5時間~8時間程度)	夏休みなどの長期休み
学生指導(メンタル面)	学生指導(メンタル面)	メンタル不調の原因と予後の事例、成功例発表、効果的な予防策と指導法	対面、グループディスカッション	キャリアコンサルタント、学生部	1日~半日	夏季休暇明け
学生指導(メンタル面)	学生のメンタルに関するもの	メンタルの弱いと思われる学生に関する対応	セミナー	教員, 職員, 管理職	半日(1時間~4時間程度)	長期休暇中
学生指導(学習面)	AIおよびIoTに関する研修	AIプログラミングやIoTプログラミング	実習	教員	2日間	夏季休暇中
学生指導(学習面)	高等学校での情報教育の現状	高等学校でどの程度ITについて学習してくるのか、専門学校ではどのレベルから教えたらいのか。	セミナー	教員	半日(1時間~4時間程度)	夏休み(8月)または春休み(3月)期間
学生指導(学習面)	専門学校生徒の行動特性と対応方法	現代の専門学校生徒はかなり特殊な行動特性を持っている。適格な対応方法を探る。	講義	教員, 職員, 管理職, 経営者	半日(1時間~4時間程度)	4~7月
学生指導(学習面)	若年層との上手な付き合い方。	怒られることを知らない世代にどのように注意指導すべきか。	講義	教員, 職員	1日(5時間~8時間程度)	閑散期

区分	研修テーマ	内容(概略で結構です)	形式	対象	日数	実施時期
学生指導 (学習面)	IT系で必要とされている知識、技術、人材像	多様化の世の中で、実際に必要とされているものがなんなのか	セミナー	教員	半日(1時間~4時間程度)	
学生指導 (学習面)	ドローン等新技術の動向を把握	実証実験等への共同参画	実証実験	教員	1日/月で6か月程度	気象条件の良い時期
学生指導 (学習面)	近年の学生の学習態度、学習傾向	Z世代が将来の夢や希望に対するの努力をどう行っているか知りたい。	セミナー	教員	半日(1時間~4時間程度)	夏季休業か春季休業期間
学生指導 (学習面)	学生をやる気にさせる授業の進め方	学生をやる気にさせる授業の進め方	講義	教員	半日(1時間~4時間程度)	いつでも
学生指導 (学習面)	機械学習	機械学習に関する科目を教員が立案・構成できるようにするための研修	実習	教員	2日間	6、9、2月など
学生指導 (学習面)	アルゴリズム能力に関する指導	学生がアルゴリズム能力、論理的思考力を高めるための施策や環境づくりについて	どれでも	教員	半日(1時間~4時間程度)	学生の長期休業期間中(盆、年末年始を除く7月末~8月末、12月末~1月頭)
就職指導	学生指導・就職指導	AI時代・アフターコロナ下における学生指導・就職指導	セミナー	教員	1日(5時間~8時間程度)	
企業との連携	企業との連携	連携授業を前向きに考えている企業との出会いの場を提供するとともに、どのような授業を実施するのかロールプレイ。	実習	教員	2日間	夏休み
企業との連携	各産業における動向と教育実態	8分野または各産業界における現場の実体、職務上の変化、当該分野を目指している学科に対するの企業側の要望、地域ごとの差(教育課程編成・見直しのために必要な業界からの情報発信として自校とかかわりのない企業・代表的な企業の状況・情勢を知る)	セミナー	教員, 管理職, 経営者	半日(1時間~4時間程度)	
募集・広報	募集・広報	効果的な募集活動	講義	教員, 管理職	半日(1時間~4時間程度)	
募集・広報	学生募集に繋げる授業作り	高校生受けを狙った聞こえの言い、見栄えのいいだけの広報の募集活動ではなく、地元企業・高校・学校の三方よしの授業の作り方をレクチャーする。	セミナー・講義をwebで閲覧できるようなオンデマンド形式	教員, 職員, 広報担当	半日(1時間~4時間程度)	学生のお休みの期間(夏休み・冬休みなど)
留学生対応	ビザ申請	技人国ビザと特定活動ビザ申請の詳細	講義	教員	1日(5時間~8時間程度) 電子帳簿保存法と簿記の実務	8月中旬以降

区分	研修テーマ	内容(概略で結構です)	形式	対象	日数	実施時期
留学生対応	専門学校に在学する留学生の意識	ここ数年でベトナム人留学生の比重が増えているが、ベトナム人留学生に顕著な傾向として、学校斡旋の就職を希望せず、卒業後も日本企業に正社員として就職したいという意識が年々薄まっているように感じる。そのため、留学生の日本就職に対する意識の変化等について聞いてみたい。	講義	教員, 職員, 管理職	半日(1時間~4時間程度)	
留学生対応	留学生対応	留学生を受け入れるために必要となる準備	セミナー	教員, 職員	1日(5時間~8時間程度)	夏季休暇など
組織管理	具体的な組織作りまたは帰属意識の強化など	役職者からの組織作りと一般職員としての帰属意識の強化など、組織の強化として職員のマインドや充実感などを感ぜられるもの。または「責任感」の醸成など、1回だけで終わるものではなく、定期的な研修があるとより定着しやすいのかと感じます。	セミナー	教員, 職員, 管理職	定期的に複数回 月に1回1時間など	通年
教育DX、教育のICT化	業務改善	業務は複雑なものから、人によってやり方が違うものまであり、その違いがあるために非効率な業務になっている。この非効率な業務を分析し、どのように改善すればいいのか、業務の一部をDX化したほうがいいのかなど、効率化の仕方の考え方やまたその実践法を学ぶ。	講義	教員, 職員, 管理職	半日(1時間~4時間程度)	新年度前、7月下旬
教育DX、教育のICT化	企業連携・DX	DX化に対応できるため、DXを用いた実習授業	実習	教員, 職員, 管理職	3日間	長期休暇期間
教育DX、教育のICT化	学校事務業務の生産性アップ	DXを活用した、事務業務の自動化、ペーパーレス化、捺印業務の削減、広報の顧客名簿管理	講義	教員, 職員, 管理職	3日間	6月、7月、8月、12月
教育DX、教育のICT化	データの電子化について	フォームの作成方法など	実習	職員	1日(5時間~8時間程度)	
教育DX、教育のICT化	専門学校での教育DX事例		セミナー	教員, 職員, 管理職, 経営者	半日(1時間~4時間程度)	
教育DX、教育のICT化	教育DXの推進	授業でどのようにICTを取り入れたらよいか。教職員にどう活用方法を習熟させたらよいか。	セミナー	教員, 管理職	半日(1時間~4時間程度)	夏休み(8月)または春休み(3月)
教育DX、教育のICT化	DX関連の取り組みについて	授業の中にどのようにDXへの入り口を用意するか	セミナー	教員, 職員	2日間	夏休みごろ
その他	ハラスメント防止	アカハラ、パワハラ、セクハラの防止に関すること	講義	教員, 職員, 管理職, 経営者	半日(1時間~4時間程度)	特になし

対面・研修会場で実施する研修会について、以下設問にお答えください。

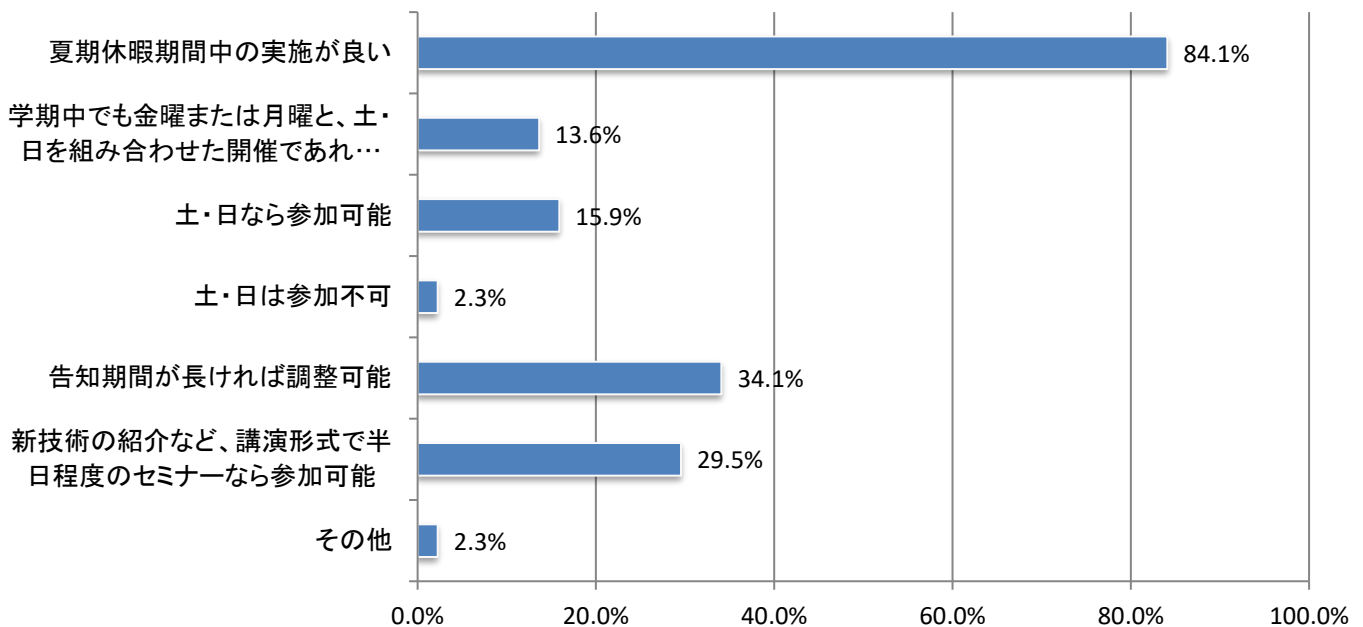
パソコン等を用いた演習や、グループディスカッションを伴う研修は、2～3日を要するものが多くなります。実施時期・日数などについて当てはまるもの全てに○を付け、ご意見等をお書き添えください。

・研修時期について

No	項目	回答	%
1	夏期休暇期間中の実施が良い	37	84.1%
2	学期中でも金曜または月曜と、土・日を組み合わせた開催であれば可	6	13.6%
3	土・日なら参加可能	7	15.9%
4	土・日は参加不可	1	2.3%
5	告知期間が長ければ調整可能	15	34.1%
6	新技術の紹介など、講演形式で半日程度のセミナーなら参加可能	13	29.5%
7	その他	1	2.3%
合計		80	-

※%の母数は回答者数(=44)、複数回答

研修時期について



◆その他

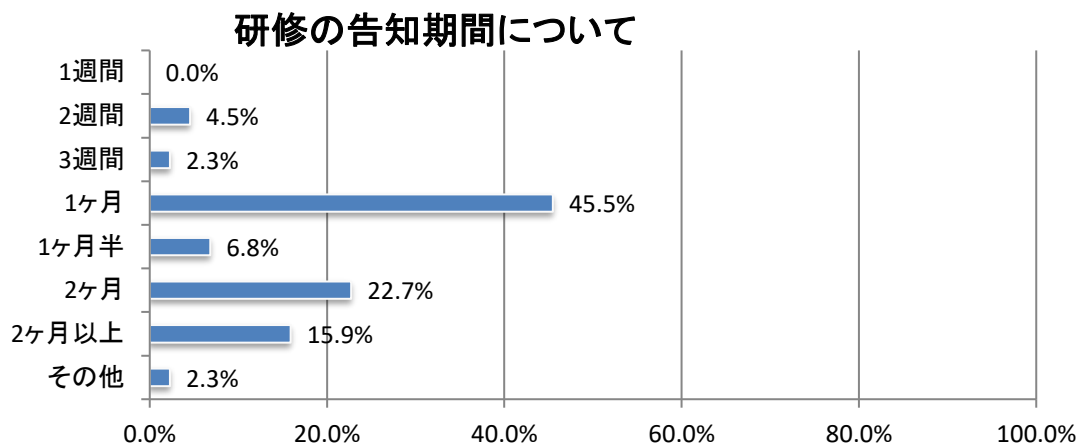
オンラインであれば調整がしやすくなる

・夏期休暇期間

7月18日～8月31日	8～9月
7/24-8/23	8月1日～8月20日
7月下旬～8月下旬	7月23日～8月31日
8月上旬から9月上旬	学生:8月5日～9月3日
8月	7月18日～9月1日
8/1～9/1、9/11～9/22	
教員の休暇期間は8/6-8/16、学生が登校しない期間は8/17-8/31	

・研修の告知期間について

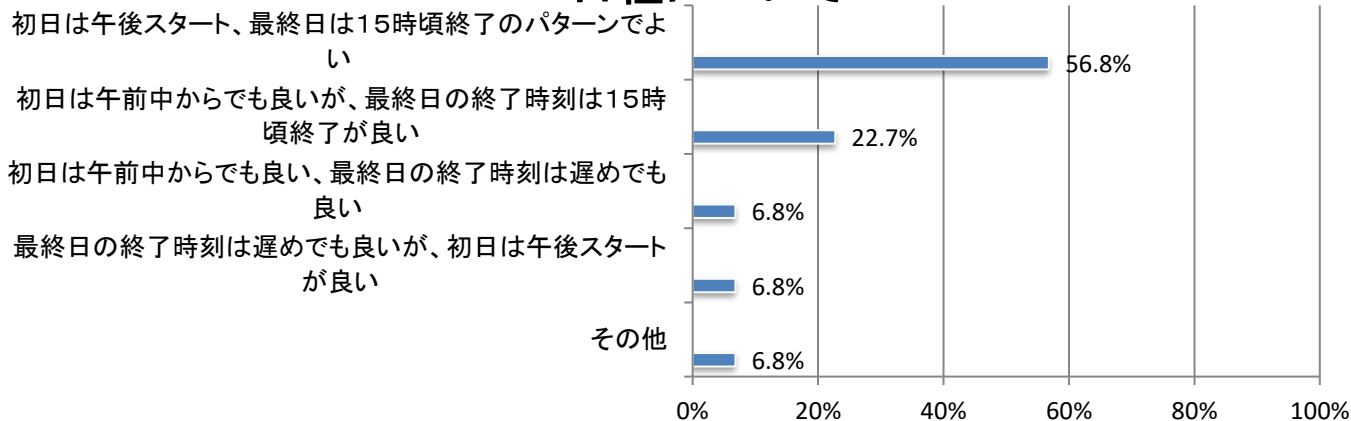
No	項目	回答	%
1	1週間	0	0.0%
2	2週間	2	4.5%
3	3週間	1	2.3%
4	1ヶ月	20	45.5%
5	1ヶ月半	3	6.8%
6	2ヶ月	10	22.7%
7	2ヶ月以上	7	15.9%
8	その他	1	2.3%
合計		44	-



日程について

No	項目	回答	%
1	初日は午後スタート、最終日は15時頃終了のパターンでよい	25	56.8%
2	初日は午前中からでも良いが、最終日の終了時刻は15時頃終了が良い	10	22.7%
3	初日は午前中からでも良い、最終日の終了時刻は遅めでも良い	3	6.8%
4	最終日の終了時刻は遅めでも良いが、初日は午後スタートが良い	3	6.8%
5	その他	3	6.8%
合計		44	100.0%

日程について



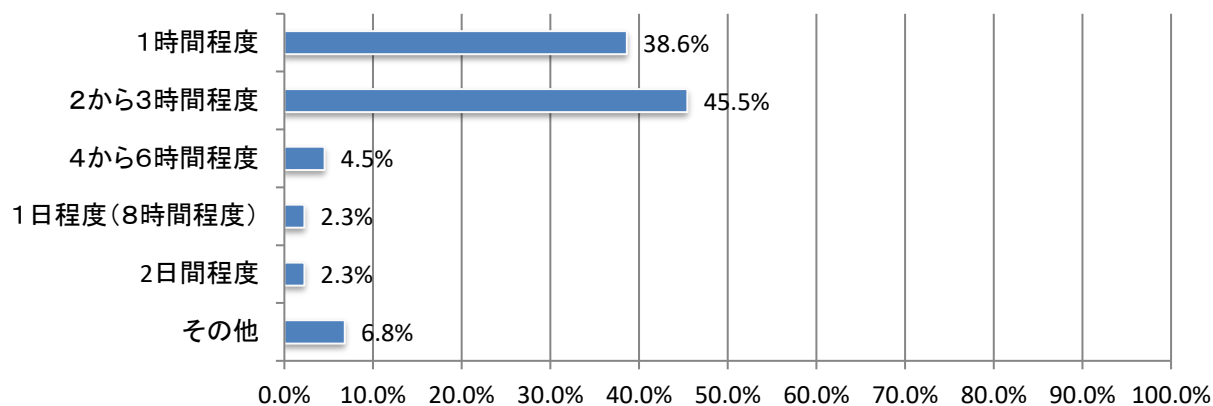
◆その他

開催地が東京の場合、オンライン以外参加不可。学生の長期休業期間中であれば時間の希望はない。平日の夕方

オンラインの研修会について

・オンライン研修会の時間は、1回あたりどの程度の時間が良いと思いますか

No	項目	回答	%
1	1時間程度	17	38.6%
2	2から3時間程度	20	45.5%
3	4から6時間程度	2	4.5%
4	1日程度(8時間程度)	1	2.3%
5	2日間程度	1	2.3%
6	その他	3	6.8%
合計		44	100.0%



◆その他

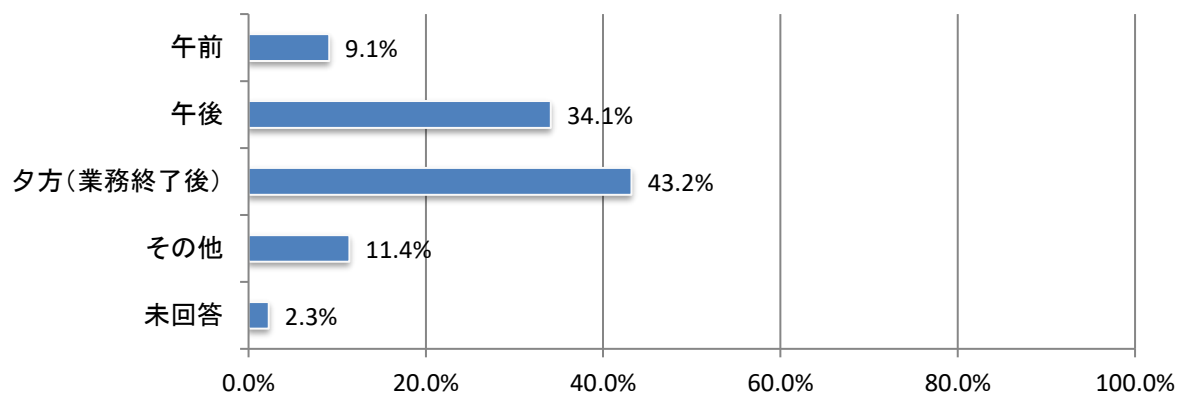
内容・性質、施設・聴講場所の制限による

実習を伴う場合には別室を用意したい。研修以外の割り込みを防止したいが、職員室では研修成果が低下する。向いている内容、調整したいことがテーマによって異なる。

告知期間により調整

・リアルタイムでオンライン研修に参加する場合、受講に都合のよい時間はありますか

No	項目	回答	%
1	午前	4	9.1%
2	午後	15	34.1%
3	夕方(業務終了後)	19	43.2%
4	その他	5	11.4%
5	未回答	1	2.3%
合計		44	100.0%



◆その他

特になし

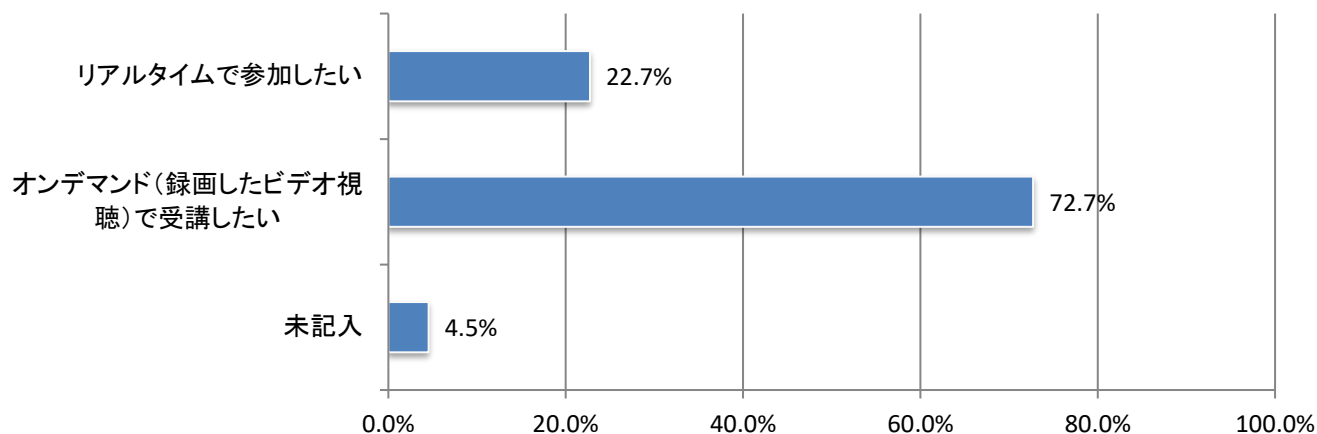
告知期間により調整

基本は業務時間中に納まる研修であるべき

休日・祝日・お盆休み

・オンライン研修会の受講形態

No	項目	回答	%
1	リアルタイムで参加したい	10	22.7%
2	オンデマンド(録画したビデオ視聴)で受講したい	32	72.7%
3	未記入	2	4.5%
合計		44	100.0%



理由

・リアルタイムで参加したい

リアルタイムだとその都度質問ができる。また、オンデマンドだと目的意識が薄れ、こなすことが目的になる可能性が高くなるため。

どちらでも構いません

質問などの意見交換をしやすい為

オンデマンド受講は結局受講しないケースが多い

内容にもよるが、視聴時間が長いほどオンデマンドはやりづらくなる。内容が途切れる

質疑応答がその場でできるため

その都度質問をしながら進められると思うため。しかし、後で見返すことが出来るように、録画も合わせてあるとありがたいです。

・オンデマンド(録画したビデオ視聴)で受講したい

オンデマンドであれば日程の融通がきくから

急な学生対応などが発生する可能性があるため、オンデマンドの方が助かります。ただし、後からメール等で質問できるようにしていただけると更にありがたいです。

見たいところを繰り返し見ることができる。

業務で中断する可能性があるため

受講時間の制限がなく、研修に参加する機会が増えるため

視聴する時間帯が自由に選べるから

スケジュールに併せて視聴が可能

必ずしも時間を確保できるか分からないため

調整しやすい

時間に拘束されないでいつでも受講できるため

受講時間が自由になるから

教員の都合に合わせてやすい

時間の調整が自由にできるため。

何度も見返せるため

業務時間内で、時間の調整がしやすいから。

注視したいところを繰り返し見られる

業務の隙間時間に視聴できる

時間の融通が利きやすく振り返りが容易なため。

夕方以降にもスケジュールが入ることがあるため

With・Afterコロナにおける学校運営・授業実施について、現在困っていることや、抱えている問題・課題等がございましたら ご記入ください。

マスクを外せない学生がいないか不安

5類移行に際し、どの程度規制(マスク・アクリル板等)を緩和してしまっているのか。

感染防止対策の名残や習慣が抜けにくくなっている。

学生同士の交流の機会が少ないため、良いクラスの雰囲気を作りにくい

教員不足

座学はOLで対応できるが実習は対応不可

オンラインやハイブリッド授業など職員によってITスキルによって差が大きくなる。

また、録画などは継続していきたいと考えているが、職員の授業の振り返りなどで効果的な使用方法が知りたい。検定を取るだけの授業ではなく、新しい取り組みや発想を促す授業研修なども欲しいです。

コロナにおいてDXは必要不可欠となったが、それを指導する教育現場でDXが非常に遅れている。

3年ぶりに通常運転になったので、業務感覚を忘れていて職員員のギアが上がらない。

学生のメンタル面が以前より弱い。「毎日学校に来ることが当たり前」「体調が少し悪い程度だったら学校に来る」という考えはなくなり、「無理なくてもよい」という指導が高校で行われていたため、そういった気分が抜けにくい学生がいる。

・高校でのリモート授業の実施が意外とできておらず、入学後の学生のリモートツールの扱いが不慣れな点。

・コロナによる活動自粛によるさまざまな経験値の不足(小・中・高校での修学旅行やそのほか今まで日本の教育で行われていた行事など)

今年の新入生は高校3年間、マスク生活であり、行事等も制限され、様々な経験を制限されてきている。それに加え、AI化、デジタル化の推進により、対人コミュニケーション力、集団応力等、人間関係構築力を初めとする人間力の低下が危惧されている。この事に対策を個々の教職員が考える前に、組織内で喫緊の課題と捉える風土づくりがまず必要であると考えます。

教室配置・登校計画、高齢の講師の安全確保

学生の就学意識に差があるため、オンライン講義などではばらつきが発生しやすい

校内での感染拡大への不安

GIGAスクール構想の前倒し、遠隔教育等 コロナ禍により急速に取り組みが進んだ小・中・高等学校での教育のICT化に伴う専門学校としての今後の対応について、現在の取組状況、抱えている問題や課題等をご記入ください。

授業のICT化

ほとんど情報が入ってこないで、一からご教示いただくとありがたいです。

教員体制及び設備体制あたりがポイントになる。

アクティブラーニング等の機会を増やす必要があるが、資格取得重視の中での知識詰め込み型の教育が多い。

学生の学力低下、及び、目標意識の低さ

Teamsを使用した遠隔授業に取り組んでいます。入学したばかりの学生が遠隔授業に取り組む際に丁寧に案内をしています。

対応した授業内容

扱う情報量が圧倒的に多くなり有効な情報選択能力が未熟

引き続き週1日の遠隔授業日を設定

小・中・高でICTが進み、専門学校にきて退化した授業になる可能性がある職員または授業がある。最低でもITに關しての基本的な知識やリテラシーなどはできるようにする必要が必ずある。

また、今後chatGPTなど聞けば解決できるツールや、プログラミングが必須になることで職員の理解や勉強が急務であるが、その認識が校内やグループ内でまだ薄いことが危険に感じる。

そのような雰囲気を変えることが大きな課題であると感じる。

教員が従来のやり方に固執しているので、変わることが難し。またスキル不足

学生は自分のノートPCを必携、授業におけるe-Learningシステムやビデオ会議ソフトの併用

小・中・高等学校での教育のICT化が進んでいるので学生はICT化には慣れていますが、教員側のほうが、その変化に対応しきれいていない

専門学校として、高校よりも通信設備の強化、PCなどの機器をどのようにするか(BYODにするか)など

高校でのリモート授業の実施が意外とできておらず、入学後の学生のリモートツールの扱いが不慣れな点。
・そういった学生が入学した際に、学校のwifiなどのネットワーク設備が対応しきれない。

現状では特になし。情報Ⅰ必修に伴う影響を精査している。

動画教材の準備を進めています。

取得したデータをどのように活用していくか

教員のITリテラシー(常勤・非常勤)にばらつきがあり、全体としての効果が見えにくい

学生の出身校でのICTの状況把握

職業実践専門課程の設置・運営について、現在困っていることや、抱えている問題・課題等がございましたらご記入ください。

研修先の確保等に時間を取られてしまう

規定・報告が多すぎる、企業連携部分のみで充分

教育講師や教育課程編成委員を依頼する人材がいない。

教育課程編成委員会および企業連携実習の企業選定

新規に協力していただける企業様を増やしていきたいと考えています。

現在は主に県内の地元企業が中心となっていますが、就職先なども考慮すると都内も含めて広げていく必要があると考えています。そのコネクションを増やしたい。

最新知識を得るための教員研修のあり方

教育課程編成委員会の日程調整が難しい。従前から企業連携授業を実施しているので、職業実践専門課程のメリットが感じられない。

コロナを懸念してインターンシップの受け入れが減ったり、対面でのインターンシップに代わる実習が実践できていない

産学官連携授業を企画・運営を毎年していくための、協力していただける企業選びやお願いに時間がかかる。

業界団体の委員を探すのが大変

保護者側の知名度が無いので、説明しても説得力が薄いように感じる。(個人的な感想です)

認可・非認可校での差があるのかわからない。(個人的な知識不足によるものかもしれませんが。)

教育課程編成委員会の委員確保、団体については県外同一分野他校との競争もあり、団体側に大きな負担を強いている。団体側に負担を強いていることに対する軽減・その他対応のガイドラインをある程度でいいので明確にしてほしい。

業界によって調整方法が異なることが多い

企業と連携した実習、演習の確保が難しい

企業連携実習の日程・内容の設定について

教育DX、教育のICT化について、現状の取組み、困っていることや、抱えている問題・課題等がございましたらご記入ください。

教材作成に時間がかかる

何をどの程度どのように導入したらよいか、初歩的などころでつまづいています。

まだ推進されていないので、あまり実感がありません。

教材の作成が追い付かない

学校全体で教育DXに取り組んでいます。問題は特にありません。

どのデータからデジタル化すべきかなどが良くわからない。紙の書類をPDFで電子化するぐらいで終わっている

DX化により情報量の増大化で整理・管理が高度化

職員のIT基礎力。そのあとで初めてDX。進められる部署は進んでいるため展開するが、やはり人。

教育現場でDXが非常に遅れている。職員室業務や資料作りなどに追われているが、DX化がまだまだされておらず、手作業業務が非常に多い。

設備投資と教員の考え方の転換、およびスキルアップ

教員のリテラシーにばらつきあることが課題

授業におけるe-Learningシステムやビデオ会議ソフトの併用

教職員のDX化に対する知識、技量不足

授業のカリキュラムの見直しや、PCやタブレットなどの所持をどうするか(現在授業で使用するPCは全て学校が準備し、学校に置いてあるものを使用している)

上長にあたる人たちが現場での実務をしていないため、DXの夢物語のような側面しか見えていない場合、こちらが提案した内容の現実的な運用像を理解できず、画期的なサービスであっても決済が下りず、教員の個人負担でシャドーITで実績・結果を出してから出ないと導入が出来ないため、教員側の負担が大きく、やる気が失せる。

反面、自分たちが探してきたサービスは押し付ける。やる気が失せる。

教職員のDX化に関する知識・技術不足

データライゼーションを進めることが難しい

取得したデータの見方、その上でどのように教育に活かしていくか

最新技術へのキャッチアップ

前述の他に、現在困っていることや、抱えている問題・課題等がございましたらお書きください。(どんな些細なことでも結構です。)

授業準備のための時間の確保(内容の劣化、質が低下してしまう)

教育はICTだけでは解決できない(机上の論理だけではない)、現場で現物をみて学ぶことが大切

専門学校職員として新規採用をしており、新人が増えてきました。

その中で、私たちは教育の「プロ」である自覚を持つ職員が少なくなっている気がします。

そういったマインドなど新入職員研修だけでなく、中堅、ベテラン、管理職研修など、意識改革に繋がるものがあると非常に助かります。

SD(スタッフ・ディベロップメント)の実施内容及び実施方法

教育人材の不足と、教員の対応すべき業務が教育(授業活動)以外で増大している。

心の問題を抱えた学生は家族や友人たちの取組み、支援が必要であり、どのようにご家族に伝えるべきかに迷うことが多い。

長引いて学籍異動にかかわることも多いので休学・退学・留年・除籍の判断の見極め